

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	稲荷山医療福祉センターほっぷ		
○保護者評価実施期間	R7年12月15日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R7年12月15日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	R7年12月15日		～ R8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月16日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・療育の専門家であるリハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師）が訪問し、訪問先と支援を検討できる。	・訪問先が困っている事（ニーズ）を中心に、有効な療育支援を提案するようにしている。 ・地域学校や保育園で生活する肢体不自由児の支援に慣れない現場が多いためPTが積極的に訪問している。 ・今年度から公認心理師による訪問も可能にし、知能検査結果を踏まえた助言をしている。	・訪問件数が増えてきたら、PT、OT、ST訪問で有効だった支援について事例発表をし、研修の一環にできるよう検討します。
2	・外来受診している子どもが多く、訪問先での子どもの様子を主治医と共有し、必要な助言や治療につなげている。	・受診時に保護者から聞く様子では見えなかった支援課題を主治医と共有し、保護者への助言や服薬調整に活かしてもらっている。	・外来受診している子どもについては、引き続き主治医と丁寧に情報交換を行います。併せて、主治医からもアドバイスをもらい、訪問時の助言に生かしていきます。
3	・バックボーンが医療機関であるため、保護者との信頼関係が築きやすく、子どもの所属機関とニーズがかみ合わない等の調整が必要なケースを、間に入って調整することができやすい。	・保護者の不安やニーズを丁寧に聞き取った上で、訪問先での支援の様子や子どもの様子をお伝えしながら、成長課題がどこにあるのか話し合うようにしている。	・保護者の不安が強い場合は、児童発達管理責任者が面談の時間を設け、子どもの養育について相談にのります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・リハビリスタッフの外来、入所リハビリとの調整が取りづらい。院内の仕事を優先すると、長時間の訪問時間が取れない。また、リハビリの時間割と、訪問先の日課にずれがあるので、院内のリハビリ時間を多く削ることになる。	・スタッフも業務を兼務しているので、すべての時間を訪問に使えない。	・苦手な課題のみの参観にするなど、できるだけ効率的に訪問できるよう計画していく。また、先生方とのミーティングについてはZOOMを利用することも検討したい。
2	・訪問先との調整、リハビリスタッフと同行、保護者への報告など調整をするスタッフが不足しているため、今後、訪問件数が増えると訪問ニーズを満たせるか不安。	・訪問スタッフ同様、児童発達管理責任者も他業務と兼務しているため、すべての時間を保育所等訪問支援に使えない。	・保護者への報告をリハビリ時間内に訪問員が実施することで、児童発達管理責任者の負担を減らします。
3			